

理念 ① 産業と自然がつながるまちづくり

つながりで築く 幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町



OKU
IZUMO
Plan for the future

基本目標 ① 自然と共生した資源循環型産業をつくる

基本目標 ② 人を惹きつける産業をつくる

基本目標 ③ 活力ある地域を支える担い手をつくる



農業の振興

第2期 総合戦略の取組目標

施策を取り巻く社会情勢

農村地域では、都市部以上に人口減少、高齢化が進み、担い手・後継者不足により農地の荒廃や生産基盤の脆弱化が進行しています。

また、国際貿易交渉の進展により、安価な農林畜産物や加工品が輸入される一方、国内需要の縮小と消費者ニーズの多様化による産地間競争が激化し、農業を取り巻く情勢は、厳しい状況にあります。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町は昼夜の寒暖差が大きく冷涼な気候を活かした農業が特徴です。水田では、ブランド米である「仁多米」が生産され、転作地や国営開発農地では、キャベツやほうれんそうなどの特産野菜のほか、そば、エゴマの振興を図っています。
- ◆農家は小規模経営が中心で、専業農家は少なく、農業従事者の高齢化と担い手不足を背景に、耕作放棄地や遊休農地が増加傾向にあります。また、基盤整備に係る負担金や流通経費の高騰、機械への過剰投資など、生産コストの低減が課題となっています。
- ◆今後は、農地の集積やスマート農業の活用、集落営農等の法人化、日本型直接支払制度等により、農地を守り、活かす取組を推進する必要があります。

10年後のめざす姿

町内産農産物のさらなるブランド化を推進するとともに、「儲かる農業」への転換を図り、新規就農者や規模拡大を目指す農業者を支援することによる、安定的に安心・安全な農産物を生産するまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
認定農業者数	70件	75件	80件
主要農産物販売額 (JA取扱分)	97,113万円	100,000万円	102,000万円

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 農地の維持・管理・保全

中山間地域等直接支払制度(5期)では、認定農業者の育成を図り、農用地の集積、農業経営の体制強化を進めるとともに、未協定集落の集落協定の締結を進め、農地の維持・管理を図ります。また、国営開発農地においても、個別協定の締結や後継者等への経営継承を図りながら、今後も認定農業者など担い手への農地の集積を促します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
中山間地域等直接支払事業協定農用地面積	1,982 ha	1,960 ha	1,940 ha

(2) 奥出雲の強みを活かした特色ある生産と販売

地域に根差した資源循環型農業を推進し、「仁多米」はもとより町内で生産される農産物のブランド力強化を図り、地元産直市などを活用した地産地消の推進、「奥出雲ブランド」や「農業遺産認定」を活かした有利販売に努め、生産者の所得向上を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産直市販売額	16,540万円	16,800万円	17,000万円

(3) 農業の生産性向上のための新技術の導入

これまでの農業では、生産者の経験と勘による栽培が行われてきました。今後は栽培データの集積と分析を進めマニュアル化し、栽培技術の向上と農作業の省力化をすることで、「誰でも、どこでも」良質な農産物の生産を可能にし、担い手確保につながるスムーズな事業承継環境を整備します。また、生産性向上や省力化に向けたスマート農業技術の導入や活用について支援を行い、持続可能な農業を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
先端技術導入経営体数	6経営体	10経営体	15経営体

(4) 棚田を活用した農村振興

棚田地域振興法の施行により、棚田を核とした棚田オーナー制度の活用、郷土料理の提供、棚田ブランド米の販売、古民家を改修しての農泊や農業体験、棚田展望台、棚田のライトアップ、棚田カフェなど新しい視点での農村振興を推進します。併せて、中山間地域等直接支払事業の棚田加算を活用し、これらの取組を町全域の集落に広げます。行政の役割、集落、個人の取組を明確にし、農業体験や移住体験、短期宿泊体験などとの連携を促すことで、交流人口及び関係人口の拡大、移住定住につながるしくみづくりを進めていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
中山間地域直接支払事業での棚田加算措置集落数	18集落	28集落	38集落

(5) 安心・安全で売れる農産物の生産

農産物の安心・安全を確保するため、「GAP:農業生産工程管理」の取組を推進します。

また、「仁多米」の特別栽培米(エコ米)及び減農薬、減化学肥料栽培を推進し、消費者が求める安心・安全で高品質な農産物の生産に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
環境保全型農業取組者数	59件	65件	70件



- 町民・地域
 - ◆地産地消で地元の食材に興味を持つ
 - ◆町民一人ひとりが自らの農地を守る
- 企業・団体
 - ◆生産性と収益性の高い農産物を普及しよう
 - ◆先進的な農業技術を普及しよう

畜産業の振興

第2期 総合戦略の取組目標

施策を取り巻く社会情勢

農家の高齢化や担い手・後継者不足により飼養戸数の減少が進行し、加えて飼料価格の上昇など経営環境の変化によって、生産基盤の弱体化が懸念されています。一方で、消費者ニーズの多様化や国際貿易交渉の進展などにより外国産畜産物の増加や消費動向の変化など、これからの肉用牛生産及び酪農の発展に向けた転機を迎えている状況です。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の畜産・酪農は重要な産業の一つであり、特に肉用牛は増体・肉質とも優れ、かつては「仁多牛」、現在は「奥出雲和牛」として全国的にも高い評価を得ています。令和2(2020)年10月には、地域団体商標として「奥出雲和牛」が登録され、さらなるブランド牛の生産体制を確立するためJAと協力しながら維持拡大を図っています。
- ◆しかし、畜産経営の状況は、農家の高齢化・兼業化、牛肉の輸入自由化などにより、飼養戸数・頭数ともに減少傾向にあるため、今後も引き続き畜産農家の経営改善や生産性の向上と基盤確立に向けた施策の推進、担い手の確保、後継者育成を図る必要があります。

10年後のめざす姿

町内外からの新たな担い手の確保、後継者育成を進め、和牛繁殖農家数の減少に歯止めをかけるとともに、コントラクターの利用などを活用して労働力不足の解消を図り、生産基盤の強化に努め、おいしい「奥出雲和牛」を生み出すまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
繁殖和牛飼養戸数	135戸	133戸	130戸

関連計画

奥出雲町畜産クラスター計画	平成30年度～令和5年度
---------------	--------------

取組

(1) 奥出雲和牛の生産基盤の維持拡大

(一社)町農業公社の繁殖育成牧場を活用し、優良雌子牛及び受精卵の畜産農家への供給や県外の優良系統牛の導入、優良雌子牛の地元保留を進め、優良牛の確保に努めるとともに、集落営農組織等へ畜産を取り入れ、新たな飼養体制を整えます。
また、農家の高齢化や担い手不足が深刻化する中、コントラクター¹⁹の利用促進などにより、畜産農家の労働力軽減を図り、奥出雲和牛の産地の維持、飼養頭数の維持拡大に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
繁殖和牛飼養頭数	1,082頭	1,120頭	1,150頭
コントラクター利用件数	20件	22件	25件

(2) 耕畜連携による資源循環型農業の推進

堆肥は、おいしい「仁多米」の生産や安心・安全な農産物の生産、農地の地力維持、向上に欠かすことのできない地域資源です。これからも、堆肥の需要に応えるため、仁多堆肥センターのストックヤードの充実を図り、ペレット化による供給体制を整えます。
また、遊休農地等へ放牧を推進することで、畜産農家の省力化と農地資源の保全を図り、担い手不足による耕作放棄地の解消に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
水田への堆肥供給面積	604.2 ha	650.0 ha	670.0 ha



町が主催する肉用種牛共進会



仁多堆肥センターによる堆肥散布

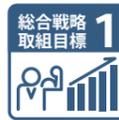
¹⁹ コントラクター：飼料作物の播種や収穫作業、堆肥の調製・運搬・散布作業などを請け負う組織。近年、畜産経営においては、飼養規模の拡大により、飼養管理に専念するため、自給飼料生産を外部（コントラクター）に委託する動きが加速。



- 町民・地域
 - ◆おいしい「奥出雲和牛」を積極的に購入する
 - ◆新規就農者や若い生産者を応援する
- 企業・団体
 - ◆「奥出雲和牛」を積極的にPRする
 - ◆先進的な畜産技術を普及する

林業の振興

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

主に戦後の復興期に植林された本町の人工林の多くは主伐期を迎えています。近年の木材価格の低迷や林業従事者の減少等のため木材の出荷は低迷しています。

森林の経済的価値が下落したことで、山主の山林経営に対する関心も低下しており、不在村地主の増加もあって、管理の行き届かない森林が増加しつつあります。

民有林の管理手法として、平成31(2019)年4月から適正な管理が行われていない森林について、町が仲介役となり、意欲と能力のある林業事業体に経営管理を再委託する「新たな森林管理システム」による手法が加まりました。同時に、全国の自治体に対して「森林環境譲与税」の交付が始まっており、管理の行き届かない森林の保全が進むものと期待されています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆令和元(2019)年度の町内の林産出荷額は97百万であり、10年前の153百万、5年前の109百万に比べ、年々減少傾向にあります。
- ◆森林を管理する担い手不足が深刻で、林業従事者は10年前の68人から34人と、この10年間で半減しました。
- ◆林業の生産性を高めるためには、今後路網整備と施業地の団地化・集約化を行い、スマート林業を推進することが必要不可欠です。
- ◆豊富な地域資源である林産材を活用して菌床椎茸栽培を行っており、島根県内で最大の生産地となっています。また、舞茸やエリンギ等の生産も盛んで、近年は売上を伸ばしています。
- ◆奥出雲独自の椎茸ブランド「雲太1号」を開発し、市場での有利販売を目指していますが、栽培管理が難しく、生産が思うように伸びていません。

10年後のめざす姿

スマート林業の推進と森林環境譲与税の活用による林業の生産性が高く、健全な奥出雲の森林があり、椎茸などの特用林産の栽培が盛んなまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
木材出荷量	6,500m ³	7,000m ³	7,500m ³

関連計画

奥出雲町森林整備計画 平成30年度～令和9年度

取組

(1) 山林の保全と基盤整備

航空レーザ計測による森林資源解析を実施し、正確な森林資源量等を把握します。森林組合との連携のもと、スマート林業の素地を築き、将来的には川上と川下をつなぐ林業サプライチェーン²⁰の構築を目指します。

また、微細地形データを基に、県営林業専用道や林内作業道等の路網整備を進めるとともに、地籍調査事業による不在村地主の状況や林地境界の把握に努めます。また、将来的に施業の集約化・団地化を促進することで、林業低コスト化と山主還元率の向上を図るとともに、木材の安定供給により、優位な価格での販売促進を行い、木材価格の低迷から脱却を図るため、近隣市町との広域化の方向を模索します。

そのほか、高性能林業機械の導入補助や農林中金「森力事業」への支援等を行い、施業の効率化推進とスマート林業の受け手となる町内林業経営体(森林組合)育成を図るとともに、島根県が進める循環型林業(伐って・使って・植えて・育てる)を構築するため再造林を推奨し、森林災害が発生しにくい健全な森林づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
路網敷設延長	1,466m	4,466m	9,466m
施業集約化団地数	0団地	1団地	2団地

(2) 特用林産の推進

本町が進める「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」を構成する特産品でもあるシイタケなど特用林産の振興を図ります。

また、産地創生事業(県単)等を利用し、椎茸等栽培施設強化による収量拡大を図り、榎木生産原料としてのクヌギ造林の利用を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
榎木生産原料の町内比率	38.0%	43.0%	45.0%

(3) 山林の多面的利用

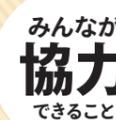
ミニキャンプやグランピング人気を捉え、既存森林レクリエーション施設の再整備や近隣施設と連携した取組を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
玉峰山森林公園施設利用件数	230件	270件	300件



中学生による林業体験(子ども版きこりプロジェクト)

²⁰ サプライチェーン: 原材料や部品の調達から、製造・生産管理・販売・配送までの流れのこと。



- 町民・地域 ◆森林所有者も含め、森林を適正に管理する
- 企業・団体 ◆特用林産を推進する
- ◆小中学生対象の森林教室などによる後継者育成のためのPR活動をする

環境・エネルギー・景観

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

自然環境の悪化に伴い、生物の多様性が、これまでにない早さで刻一刻と失われつつあります。

便利なプラスチックは世界中で大量に生産されてきましたが、使い捨てにされ、放置されたプラスチックゴミは深刻な社会問題となってきました。

東日本大震災以降、国を挙げて再生可能エネルギーの利活用拡大が図られてきましたが、電力の安定供給の観点から、再稼働する原発もあり、再生可能エネルギーに関する動向はやや不透明となっています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆人口減少、生活様式の変化に伴い、ごみの排出量は減少傾向にあるものの、化石燃料から製造されるプラスチック製品（PE、PPなど）は増加傾向にあり、ごみ処理費用が増加しています。
- ◆太陽光発電システムや木質系バイオマス暖房機器等に対する補助、林地残材を木質系バイオマス燃料（木質チップ）として、町内2カ所の温浴施設に供給しています。
- ◆町営の小水力発電所を3カ所所有し、各発電所は電力固定価格買取制度（FIT制度）の認定を受けています。また、電力の地産地消を進めるため、電力の小売会社である奥出雲電力㈱を設立しています。
- ◆豊富に存在する森林資源の活用を目指して、平成26(2014)年に「奥出雲町バイオマス産業都市構想」を策定し、認定を受けていますが、たたら製鉄によってもたらされた景観である、国の重要文化的景観や日本遺産登録を住民自身がそのことに誇りを持ち、この宝を未来につないでいく必要があります。
- ◆地区によっては、松くいやナラ枯れによる里山の景観破壊が見られます。

10年後のめざす姿

脱炭素社会づくりに向けた国民運動「COOL CHOICE²¹」を推進するとともに、エネルギー地産地消の取組が推進されたまち
住民がたたら製鉄に育まれた奥出雲町の景観や生活様式等について理解をさらに高め、次世代に伝え、つなげていく姿が見られるまち

まちづくりの目標

KGI (KGI・Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
電力の地産地消率	62.0%	63.0%	65.0%

関連計画

奥出雲町バイオマス産業都市構想 平成26年1月～令和6年1月

取組

(1) 森林環境の保全・創造

間伐や主伐後の定植への指導を強化し、森林の公益的機能の維持に努めます。また、適正な管理が行われていない森林について町が仲介役となり、意欲と能力のある林業事業体に経営管理を再委託する新たな森林管理システムにより、管理の行き届かない森林の保全に務めるとともに、松くいやナラ枯れによる里山の景観破壊を防ぎます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
松くい・ナラ枯れ被害本数	1,276本	1,148本	1,033本

(2) 自然と共生する環境の形成

住民一人ひとりが日常生活を振り返り、脱炭素社会づくりに貢献するため、地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を推進するとともに普及啓発を図ります。

また、公共施設における省エネルギー製品の積極的な導入を進め、新エネルギー設備の促進を図るとともに、太陽光発電及び木質チップボイラー等の再生可能エネルギー導入を促進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「COOL CHOICE」の普及啓発活動回数/年	12回	12回	14回

(3) 循環型社会の構築

住民、事業所、団体、行政が協働し、3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）活動を推進するとともに「どのようなものを何にリサイクルするために集めるか」を意識し、ごみの分別回収に引き続き取り組みます。また、3Rの推進を図るため、キーマンとなる人材の発掘を進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町内各種団体によるごみ処理施設の見学、出前講座の開催回数/年	0回	2回	4回

(4) 新エネルギーの導入支援

新エネルギー設備導入促進事業を活用し、太陽光発電並びに蓄電池の設置、木質エネルギーの普及促進による環境負荷の軽減及び災害に強い家づくりを推進します。

また、各小水力発電所の機能が将来にわたり十分に発揮できるよう、必要に応じて長寿命化対策等を講じるとともに、電気の地産地消のため、奥出雲電力㈱による事業所への電力供給の基盤整備を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
新エネルギー設備導入促進事業数	146件	161件	177件
阿井発電所の年間発電電量	720,737 kWh	755,000 kWh	767,000 kWh

(5) 景観形成の推進

住民が折に触れ町内景観の素晴らしさに気づけるよう、「奥出雲町遺産認定制度」の継続実施と後世に残すための記録保存を推進し、定期的に情報発信を行います。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「奥出雲の遺産」認定件数	77件	90件	100件

²¹ COOL CHOICE: 2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のために、日本が世界に誇る省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動。

みんなが協力できること

- 町民・地域
 - ◆「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」に取り組む
 - ◆電気の地産地消に取り組む
 - ◆奥出雲町遺産に関心を持つ
- 企業・団体
 - ◆「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を推進する
 - ◆電気の地産地消に取り組む
 - ◆認定された景観等の写真を使って、情報発信する



商業・工業の振興

第2期 総合戦略の取組目標

総合戦略取組目標 1 総合戦略取組目標 2 総合戦略取組目標 3 総合戦略取組目標 4

8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

施策を取り巻く社会情勢

平成30(2018)年度年次経済財政報告書によれば、「我が国経済は、平成24(2012)年11月を底に緩やかな景気回復が続いている。」とされていますが、地方都市の商工業においては、依然として厳しい状況が続いています。また、近年においてはICT分野における技術革新の進展が目覚ましく、産業構造や競争環境が大きく変化しており、商工業の分野においても、こうした社会情勢の変化に対応しながら、生産性の効率を高め、事業を継続していく必要があります。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の商業においては、人口減少による需要の減少、近隣地域の大型店舗への購買客流出などにより販売額の減少が続いており、地域の商業を支える小規模事業者は減少しています。また、75歳以上の経営者が全体の18%と県平均の7%よりも高く、事業承継への支援が必要です。
- ◆製造業においては、金属製品製造業、食料品製造業、繊維工業などが主体であり、製造品出荷額は平成21(2009)年から大きく増加し、平成25(2013)年度以降300億円弱で推移していますが、その経営環境は人口減少、顧客ニーズやIT化による多様化への対応などにより、一層厳しさを増しています。また、企業が安定的・発展的に事業展開するうえで必要となる従業員の確保と育成は、少子高齢化などにより難しい状況が続いています。
- ◆このように本町の商工業を担う中小企業・小規模事業者は非常に厳しい状況におかれています。地域の経済と雇用を支える重要な存在であるため、本町の「奥出雲町中小企業・小規模企業振興基本条例」に則り、商工会をはじめとした関係機関と連携し、多様な取組を支援する必要があります。

10年後のめざす姿

社会の変化に対応しながら、
町内の中小企業・小規模事業者が事業活動を活発に展開し、
町内全体の経済が好循環しているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
製造品出荷額	293億円	300億円	310億円
粗付加価値額	116億円	118億円	120億円

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 商工事業者への経営支援

商工団体や金融機関と連携し、商工事業者への経営支援や金融支援などの情報提供に努め、事業者の安定的・持続的な経営基盤の確保を支援します。また、商工会が策定する経営発達支援計画に基づく伴走型支援が円滑に推進されるよう支援し、商工事業者の売上拡大、経営改善をはじめ、新規出店や移動販売、オンライン販売など社会情勢に対応した取組を支援します。

事業承継においては支援すべき案件を整理し、第三者承継なども含めた事業承継が円滑に進むよう関連機関と連携して支援します。

また、企業の安定的・継続的な発展に必要な人材の確保や従業員のスキル向上などへの取組に対し、関係機関と連携して支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
支援補助金(地域商業等支援事業)の採択件数	1件	11件	22件
事業承継の支援件数(商工会支援による事業承継事業者数)	4件	24件	44件

(2) 地域内消費の喚起

地域商業の活性化を図るため、商工会を始めたとして関連機関と連携し、地域の賑わいづくりのための新たな事業の創出や商業環境の整備を支援します。

また、地域電子通貨の導入などによる地域内消費を生み出す取組を積極的に支援し、持続可能な地域経済の確立を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産直市販売額(再掲)	16,540万円	16,800万円	17,000万円

(3) 地域資源を活用した産業の創出

町内に豊富に賦存する農林産物をはじめとする地域資源を活用した新商品・サービスの開発、新分野への進出など、農商工連携や6次産業化などによる新たな産業の創出を支援します。また、地域資源の活用以外においても、地域課題の解決につながる新たなビジネスの創出やICT技術を活かした新たな商品・サービスの開発を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産業創出関係補助事業の採択件数	2件	12件	22件



産業創出支援事業により整備されたカフェ

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆地元で買えるものは地元で買う
- 企業・団体 ◆安定的・持続的な経営基盤の確保に努める
◆社会情勢に適應しながら、新たな事業展開に努める

観光の振興

第2期 総合戦略の取組目標

総合戦略取組目標 1 総合戦略取組目標 2 総合戦略取組目標 3 総合戦略取組目標 4

8 働きがいも経済成長も

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

施策を取り巻く社会情勢

観光を取り巻く環境は本格的な人口減少社会の到来、旅行形態の多様化、インバウンド需要の増加などにより著しく変化し、観光立国推進基本法の施行、観光立国推進基本計画の策定、観光庁の設置など国を挙げての体制整備が行われています。また、全国各所でDMO²²による地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する観光地域づくりが始まっています。地方都市においても、観光振興による交流人口増加を通じた高い経済波及効果によって、人口減少で生じる影響の緩和が期待できます。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町には、たたら製鉄に関する資源や、温泉、自然景勝地等の観光資源が存在し、年間80万人を超える観光入込客があります。
- ◆中国横断自動車道尾道松江線の全線開通により山陰地方へのアクセスが向上し、山陽方面から多くの集客が見込めることから、地域資源を活かした観光商品の開発や情報発信によって認知度を向上させる必要があります。
- ◆平成30(2018)年度に観光協会を法人化し、本町の地域資源を活かした新たな観光商品開発や情報発信を行っています。旅行形態は多様化しており、観光客が高い満足度を感じることができるよう、地域資源の魅力付けや町全体のおもてなし力の向上が必要です。
- ◆ホッケー、サイクリング、ボート競技など、本町が有するスポーツ環境を活かし、国内外のスポーツ合宿誘致や、スポーツツーリズムを通じた交流人口の拡大と関連産業の振興を図ることが必要です。

10年後のめざす姿

たたら製鉄や自然景勝地などの観光資源を活かした、魅力ある観光サービスを充実させるとともに、近隣自治体との広域連携や情報発信を強化し、選ばれる観光地

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
観光入込客延べ数	873,482人	880,000人	900,000人
宿泊客延べ数	32,710人	33,800人	35,000人

関連計画

奥出雲町観光振興計画 平成29年度～令和3年度

取組

(1) 観光情報発信・プロモーションの強化

パンフレットなどの紙媒体のほか、ホームページ、SNS、メディアを活用した情報発信を行います。奥出雲町観光協会を中心とした質の高い情報発信及びプロモーションの強化を行い、誘客を図る客層を意識しながら、効果的な情報発信を展開し、観光地の認知度を高めます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町公式観光ガイド閲覧数	685,245 PV	740,000 PV	800,000 PV
SNS登録者数	3,615人	8,300人	13,300人

(2) 観光資源の魅力化

たたら製鉄、美肌温泉、神話、自然景勝地、歴史、文化、農林業、食などの地域資源を活かした滞在型・体験型の観光商品の充実を図ります。県と連携した「美肌県しまね」をキーワードにした観光地づくり、イメージ定着を重点的に推進します。また、旅行事業者、関係機関と連携して地域資源の魅力を届ける旅行商品の造成に取り組みます。雲南圏域、木次線沿線地域、比婆道後帝釈国定公園圏域など、広域的な連携による観光を推進します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
観光商品数 (体験プラン・ツアー)	16件	24件	30件

(3) 受入れ体制の充実

日本遺産及び日本農業遺産登録をシンボルとして、農泊及び農林業体験事業者の育成・支援を行い、受け入れの充実に努めます。地域資源の魅力伝える観光ガイドや町内観光関連事業者のおもてなし力の向上を図り、快適な観光を実現させます。また、観光協会の体制強化や二次交通等、各種サービスの充実により誘客強化を行います。訪日外国人客の受入れ体制の構築に向け、インバウンドへの理解促進を図ります。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
農泊及び農林業体験事業者数	6団体	10団体	15団体
観光事業者向けスキルアップセミナー開催数/年	3回	6回	6回

ハード面においては、安心して利用できる施設管理を行い、観光地の通信環境やトイレ環境の改善、観光・宿泊施設の老朽化対策を計画的に推進します。地域資源を活用した新たな集客施設を整備することで、新規客を獲得し、観光交流を促進させます。



田植え体験

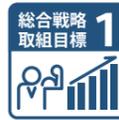
²² DMO: Destination Management Organizationの略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆心温かいおもてなしの気持ちで観光客を迎える
◆観光資源への理解を深め、魅力を伝える
- 企業・団体 ◆観光客の呼び込み、受け入れ環境づくりに取り組む
◆行政や観光協会と連携して観光関連商品の開発に努める

奥出雲ブランド構築

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

経済のグローバル化に伴う、安価な農林畜産物や加工品の輸入量の増加、食に対する価値観やライフスタイルの変化、消費者ニーズの多様化や安心・安全に対する関心の高まりにより、産地間競争がより一層激しくなっています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆「仁多米」「奥出雲和牛」「そば」「椎茸」「舞茸」など、本町には全国に誇れる農林畜産物がたくさんあります。「仁多米」は、これまで米・食味分析鑑定コンクールにおいて金賞を10回受賞。「奥出雲和牛」は、一定のブランドを確立し、「そば」「椎茸」「舞茸」ともに、市場での評価は高いものがあります。
- ◆しかしながら、消費者ニーズの多様化などにより、産地間競争は激化しているため、より一層のブランド力向上を図る必要があります。
- ◆また、少子・高齢化が進み、担い手不足が深刻化するなか、農林畜産物の品質の維持向上と生産量の維持拡大に努めなければなりません。

10年後のめざす姿

奥出雲ブランドを確立し、県内外でのさらなる認知度の向上と、同種の農林畜産物と比較して有利な販売が実現され、「食」といえば「奥出雲」といった地域イメージが確立したまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ふるさと納税寄付額	35千万円	35千万円	35千万円

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 農畜産物のブランド化

本町の資源循環型農業を活かした「仁多米」「奥出雲和牛」「そば」は、さらなるブランド価値を高めて、確固たる地位を築き、「エゴマ」「露地・施設野菜」「花き」「果樹」「豆類」などは、関係機関と協力した生産振興に努め、新たなブランドの確立を図ります。

また、新たな販売チャンネル(ネット通販など)を利用した農林畜産物の販路開拓、農業遺産の認定を活かした情報発信とPR、イメージアップを図り、奥出雲ブランドの普及・浸透に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「たたら製鉄由来の資源循環型農業」ロゴマーク使用承認数	36件	66件	96件

(2) 林産物のブランド化

奥出雲椎茸「雲太」のブランド価値を高め、ネット販売や価格決定権を出荷者側が持つ値決め取引の増加等により、高値有利販売に向けた取組を支援します。また、県産材「しまねの木」の利用拡大に向け、県が進める「しまねの木活用工務店」のPRや、高品質・高付加価値木材製品の出荷割合を増やす取組を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
菌床椎茸販売単価(全国平均価格との対比)	108.0%	110.0%	110.0%

(3) 地域資源や伝統技術を活かしたブランディング

たたらや算盤、木工芸品等、伝統産業から生み出される素材や製品を活用した、新たな製品、サービスづくりを支援します。また、日本農業遺産認定の知名度を活かし、デザインやストーリー性など付加価値の高い製品づくりを促進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
たたらブランド関連製品件数	27件	30件	33件



奥出雲たたらブランド認証商品 黒刀・月下の笹 MOONSASA

みんなが
協力
できること

- 町民・地域
 - ◆町内産の農林畜産物を町内外へアピールする
 - ◆地域の農業を盛り上げる
 - ◆奥出雲ブランドの商品購買に努める
- 企業・団体
 - ◆地域内産品の販売促進及び販路拡大を図る
 - ◆農林畜産物の新たな価値を創出する

経営支援・担い手育成

第2期 総合戦略の取組目標

総合戦略取組目標 1 総合戦略取組目標 2 総合戦略取組目標 3 総合戦略取組目標 4

8 働きがいも経済成長も

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

施策を取り巻く社会情勢

生産年齢人口の減少により介護、運送業、建設業をはじめとする各種分野で労働力の確保が困難になるといわれています。

中山間地域においては、進学や就職とともに若者の流出が進んでおり、一次産業や建設業、製造業などの地域産業の後継者や医療・福祉・介護などの生活サービスの担い手となる人材を確保することが大きな課題となっています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の就業者総数は減少傾向にあり、各種産業従事者の高齢化や担い手不足が著しい状況です。
- ◆基幹産業である農業では、経営基盤が小規模で、兼業農家が多く、また、従事者の高齢化と担い手不足により、耕作放棄地や遊休農地の増加が懸念されます。農地の集積やスマート農業の活用等による経営の改善とともに、営農組織の法人化や中心的経営体などの育成を進めることで、安定した農業経営ができる担い手を確保することが急務となっています。
- ◆林業の就業者は、10年前の68人から34人と半減し、森林整備に対する担い手が確保できていない状況であり、林業の経営基盤を強化するとともに、労働条件や就労環境の改善を進めることにより、新規就業者を確保していくことが求められています。
- ◆町内誘致企業においては、新規学卒者やUターン者の地元雇用の受け皿となっている反面、開発系エンジニアの確保が課題となっており、専門性の高いエンジニアの確保支援が求められています。
- ◆医療・福祉・介護などの生活サービスや建設業などの社会インフラの維持管理に不可欠な業種においても、担い手が不足しています。

10年後のめざす姿

農業・林業をはじめとする地域産業の経営基盤が強化され地域経済を支えるとともに、地域貢献の志とチャレンジ精神を持つ若い人材が地域産業を支えるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人口一人当たりの町民所得	2,278千円	2,400千円	2,500千円
就業者のうち25～40歳の就業者の占める割合	19.1%	25.0%	30.0%

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 地域産業の担い手育成・確保

雲南雇用対策協議会において、ハローワーク雲南と連携し、管内企業の情報提供等を行い、新規高卒者等向けの研修会開催など管内就職者への支援を行います。

また、無料職業紹介所やハローワーク雲南をはじめ関係機関による求人求職情報の提供を行い、Uターン就職や若い世代の回帰など定住の促進を図ります。

地域資源を活用した小さなチャレンジを応援するため、地域で起業又は第二創業・副業を支援するとともに、新たな活動にチャレンジする人材の掘り起こしの場として、人材育成を目的としたチャレンジスクールや起業セミナーを開催します。

教育現場での地域医療教育、医療職場体験等の支援を継続し、将来地域貢献するという意志を持って進学する地域卒推薦制度を利用した医師及び看護師の確保を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
新入研修会参加事業所数	3事業所	5事業所	7事業所

(2) 営農組織の強化と担い手の育成

営農組織の法人化に向けた集落内アンケートや経営相談、事業継承支援による担い手対策を法人化推進チーム（県農業普及部、JAしまね、県農業振興公社）や島根県農業経営相談所と連携を図って推進します。

また、中心的経営体（人・農地プランで位置付ける地域の担い手）に対する農地中間管理機構による農地利用集積をすすめ、経営基盤の強化を図り、遊休農地・荒廃農地の発生防止に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
認定農業者数（農業経営改善計画の認定を受けた者）	70人	75人	80人

(3) 林業の担い手と就業者の確保

木の駅事業「オロチの深山きこりプロジェクト」と連携して各種技術講習会を実施し、自伐林家育成を目指します。島根県農林大学校への進学生募集活動に協力し、将来的に町内の林業経営への就業者の増加を目指します。

また、Uターン者の受け入れを想定した新制度づくりに取り組みます。島根県林業魅力向上プログラム（県単独事業）を活用した林業経営体強化施策を支援し、林業従事者の増加を目指します。こども版きこりプロジェクトを実施し、子どもたちの林業への理解と関心を深めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
オロチの深山きこりプロジェクト会員数	64人	78人	83人
森林組合林業従事者数	30人	32人	35人

(4) 人材不足業種への人材確保支援

都市部で開催されるUターン相談会などに積極的に参加し、地域の求人情報を相談者に届けるとともに、無料職業紹介所において、企業の求人情報を掘り起こし、求職者に届けるなど、マッチング支援に継続して取り組みます。

また、地域の人材不足に対応するため、事業者が協同して雇用し、人材をシェアする仕組みづくりに取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
無料職業紹介所求人求職マッチング件数	8件	33件	58件

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆地域の産業や企業を応援する
- ◆奥出雲町で働く
- 企業・団体 ◆産業の担い手を育成する

起業支援と新たな働き方の推進

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

地域経済の活性化を図るため、地方ではこれまでも積極的に企業誘致が進められてきましたが、近年では新興国の賃金上昇により国内回帰する製造業の動きや場所を選ばないリモートワークの働き方により、新しい形の企業誘致が進んでいます。

また、民間活力を高めていくためには、引き続き地域の開業率を引き上げ、雇用を生み出し、産業の新陳代謝を進めていくことが重要との観点から、産業競争力強化法に基づく創業等の支援が恒久措置されるなど、国を挙げて起業創業への支援が行われています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆平成27(2015)年度より起業・創業支援に取り組み、令和元(2019)年度までに11件の起業・創業がありました。これら起業家の輩出により、地域経済の活性化と雇用機会の創出が図られています。また、人口減少が続く本町では様々な地域課題が生じているため、これら地域課題の解決につながる起業・創業も求められています。
- ◆今後も引き続き起業・創業を推進していくためには、これらに関心を持つ人々を増やし、人材の育成から起業・創業後の事業成長に至るまで、一貫した支援施策の取組が必要です。
- ◆本町の事業所の大半は中小企業・小規模事業者であり、少子高齢化や人口減少により経営環境は厳しい状況に置かれています。今後、ますます労働者の確保が難しい状況が懸念されるなか、ICT技術を活用した新たな働き方を取り入れることで、多様な担い手を確保しながら事業活動を展開することが求められています。

10年後のめざす姿

新たな視点や価値観で起業・創業する事業者が輩出され、さらにICT技術を活用した新たな働き方の推進により多種多様で魅力ある就業の場が確保されているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
起業家数	13件	18件	23件

関連計画

創業支援等事業計画 平成28年度～令和4年度

取組

(1) 起業支援の促進

「起業創業支援施設古民家オフィスみらいと奥出雲」を拠点に、商工会や金融機関、しまね産業振興財団等の支援機関と連携し、起業希望者に対する相談対応や起業に必要なスキルや知識の習得支援、起業後のフォローなど、きめ細かい支援を行います。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
起業相談・支援件数 (実人数)	23人	40人	50人

また、継続的に起業者を輩出するため、セミナー等により起業への機運醸成を高める取組を進め、起業希望者の拡大を図りながら、地域課題を新たなビジネスチャンスとして捉える柔軟な取組も支援し、既存概念にとらわれない起業家の輩出を目指します。

(2) 企業誘致の推進・新たな働き方の推進

ワークライフバランスの実現を図るため、ICT技術を活用したリモートワークなどの導入により、女性、若者、高齢者、障がい者など様々な人材がライフステージに応じた柔軟な働き方を選択でき、多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組む事業所を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町内でリモートワークに取り組む事業所数	3社	5社	10社

また、こうした働き方を導入しやすいIT関連企業を誘致しながら、多様で魅力ある雇用の場の創出を図ります。農業や林業など町内に豊富に賦存する地域資源を活用した雇用の場の創出として、閑散期に他の仕事に従事する半農半X²³など、新しい雇用機会が創出されるよう環境整備に努めます。



起業支援セミナー

²³半農半X: 農業と他の仕事(X)を組み合わせた働き方。

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆起業・創業に関する情報に関心を持つ
- 企業・団体 ◆社会情勢に応じた多様な働き方を推進する

理念 Ⅱ 人と心がつながるまちづくり

つながりで築く 幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町



基本目標 ④ 人々がつながるコミュニティをつくる

基本目標 ⑤ 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

定住の促進

第2期 総合戦略の取組目標

施策を取り巻く社会情勢

若い世代が進学や就職により、都市部へ流出しており、地方にとって若者の移住定住対策は喫緊の課題となっています。特に20代から30代の女性の人口流出が著しく、人口減少に歯止めをかけるにはこの世代と地域との関りを深め、定住につなげていく必要があります。

また、首都圏一極集中の流れの中、全国的に市町村間での移住支援施策による競争が激化し、移住先として認知してもらうためには、更なるPRと先進的な施策が必要とされ、若者や女性が魅力を感じるまちづくりが求められています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆ 住みたいまちとしての魅力を高めるために、移住定住の基本となる住まいの確保が課題となっています。特に単身用住宅は、慢性的に不足しており世帯用住宅についても町営住宅以外の空きが無く、空き家バンク登録物件についても、すぐ入居できる物件が少ないため、移住希望者と住宅のマッチングが難しい状況にあります。
- ◆ 町内企業の求人情報を広く情報発信し、求職者に届けるために無料職業紹介事業に取り組んでいますが、中高年層のマッチングにとどまっており、今後は若い世代のマッチングを増やす必要があります。
- ◆ 横田高校の約8割が進学に伴って転出しており、町内就職の学生は10名程度となっています。町内企業の賃金は上がりつつあるものの、町外企業と比較すると低い状況にあるとともに、若者が求める職種が少ない状況にあります。UIターンを促進させるために、魅力ある仕事の創出と低価格の賃貸住宅の提供が求められています。
- ◆ テレワーク、リモートワークの拡大により安定した通信サービスの提供は、新しい生活様式の実現には不可欠な要素の一つとなっています。今後、情報通信技術を活用した仕事、活動に対応できるインフラ整備が求められています。

10年後のめざす姿

子育て世代が充実した生活を送り、奥出雲町の魅力を感じながら、安心して幸せに暮らせるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
社会動態の減少幅の抑制 (人口ビジョン取組目標)	0人	60人	60人
UIターン者数(二人世帯以上の転入者数) (人口ビジョン取組目標)	69人	98人	98人

関連計画

奥出雲町公営住宅等長寿命化計画 令和元年～令和10年

取組

(1) 「住みたい」を叶える環境づくり

公営住宅などの賃貸物件や空き家バンク制度などの情報を収集し一元化して発信します。

また、個別のニーズに合った住宅環境の選択肢を与えることで、ライフスタイルに応じた住宅を見つけ出せる環境を整えます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
空き家バンクを通じた移住希望者との住宅マッチング成約件数/年	10件	10件	10件
公営公社世帯用住宅の入居率	91.0%	93.0%	95.0%

(2) 奥出雲を愛する関係人口づくり

奥出雲町に関心を持ち、関わりを望む都市住民等が、伝統行事やイベント、集落活動への参加、社会貢献などを通じて、関係人口として町との関係をより深めることが移住・定住につながります。関係人口の拡大を図るため、団体や集落また各種組織や企業など、受け入れ可能な関わりしるの情報を収集し、人と人をつなげる仕組みを整えます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
お試し暮らし体験受け入れ組数/年	2組	10組	10組

(3) 町内就業の促進

若年層には、企業見学や企業紹介チラシなどにより、町内企業への理解を深める機会を設け、「奥出雲で就職する」ことが一つの選択肢となるよう各種情報を提供していきます。また、少子高齢化に配慮し、求職者の中でも、とりわけ再就職希望者やUIターン者等には無料職業紹介所を通して雇用・定住につながるよう職業紹介に努めます。

また、人手不足に悩む企業から有効な求人情報を掘り起こし、特にUIターン者に対し情報を提供していきます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
横田高校生の管内就職率	63.0%	70.0%	70.0%
無料職業紹介所求人求職マッチング件数(再掲)	8件	33件	58件

(4) 情報発信による移住定住の促進

移住希望者が「奥出雲町の暮らし」をイメージできるよう、有益となる各種情報を一元化し、インターネットなどを活用して広く発信します。また、田舎暮らしに関心を寄せる若年層や子育て世帯等をターゲットとして、時代に合わせた移住に関する情報を発信し、相談に当たれるよう環境を整え、町の魅力を発信していきます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町定住支援サイトユーザー数	28,252	36,000	48,000



町内企業紹介パンフレット

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆身近なUIターン希望者に声掛けをする
- ◆関係人口の受け入れと交流を促進する
- 企業・団体 ◆職場環境の整備と職員の処遇を改善する
- ◆社会人向けインターンシップを受け入れる

住民主体のまちづくり

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

高齢化と人口減少が著しい地方にとって、住み慣れた地域で安心して暮らし続ける仕組みづくりは、重要な課題です。行財政改革が叫ばれる中、公的住民サービスの維持継続は大きなコストが伴ううえ、これまで生活に必要な民間サービスが閉店や廃業となり、安心して暮らし続けるための機能が衰退してきています。

また、これまで行われてきた住民同士のコミュニティ活動も減少傾向にあり、お互いを見守りや生活する上での支え合いが薄れつつあります。このため、生活に必要なサービスの維持・確保が急務となっており、公民館を単位とする地域で住民主体の「小さな拠点づくり」の取組が求められています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆多様性に満ちた住民活動を展開し、住民自ら主体性を持った活動を推進することにより、地域を支える人材の確保・育成を図り、伝統文化や習慣を受け継ぎ・守り続ける仕組みづくりが求められています。
- ◆核家族化による生活形態の多様化により、これまで地域を中心組織であった自治会組織に加入しない世帯が増えつつあるとともに、高齢化による老々・独居世帯の増加に伴い自治会コミュニティの維持継続が難しくなっています。そのため、役割を整理し、互いに協働する仕組みづくりが求められています。
- ◆地域を支える住民主体のまちづくりを進めるうえで、公民館を単位とする地域で住民自ら生活に必要なサービスを維持・確保しつつ、住民が互いに支え合う仕組みづくりが必要です。住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための「自助、互助、共助、公助」のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」が求められています。

10年後のめざす姿

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる住民主体のまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域活動における住民参加意向 (町民意識調査)	53.5%	60.0%	65.0%
地域活動に参加している町民の割合 (町民意識調査)	46.8%	54.0%	60.0%

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 小さな拠点づくりの推進

公民館を単位とする地区において、住民主体の「小さな拠点づくり」を推進し、住民の皆様の話し合いのもと、生活に必要なサービスを維持・確保し、地域資源を活用した賑わいを創出するなど、「自助、互助、共助、公助」のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
小さな拠点づくりに取り組む地区 (公民館単位)	7地区	9地区	9地区

(2) 幸せで安心して暮らせるまちづくり

住民が相互扶助の精神により、互いに助け合い、支えながら、生きがいを感じ「幸せ」に暮らしていくため、小さな拠点づくりと一体となった「地域包括ケアシステム」を構築することで、複雑化・多様化するニーズに対応できる仕組みづくりと生活機能や生活交通を維持・確保し、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

また、ICTを活用した見守りがこれからも継続して行えるよう通信インフラを整備していきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域見守り活動等実施回数 (民生児童委員による)	2,631件	2,650件	2,670件

(3) 未来を担う人づくり

住民提案型のコミュニティ活動を支援し、推進するとともに、女性の参画を促し、地域を支える人材や地域づくり、コミュニティビジネスを実践する人材の確保・育成を図ります。

また、地域と学校が一体となって子どもたちを育むふるさと教育など、多様な主体が参画する協働体制を構築するとともに、新たな担い手として関係人口の創出・拡大を図るため地域と関われる機会や場をつくり、まちの未来を担う人づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
きらり輝く地域づくり事業採択団体数	87団体	162団体	237団体
まちづくり中間支援組織数	2団体	3団体	5団体

(4) 価値を生み出すまちづくり

地域がきらりと輝く活動や地域の資源である「ひと・もの・こと」を活かした新たな事業やサービス等をつくるため、「小さな起業」や「コミュニティビジネス」を起こす人やチャレンジしたい人が集まり、みんなで学ぶ場を設けます。

また、地域住民と「まち」に関わる多様な人材が交流を図りながら、奥出雲町にしかない魅力に磨きをかけ、「ひと・もの・こと」を輝かせ、新しい価値を生み出せるまちづくりを目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人材育成関連事業及び地域づくりセミナー等参加者数	1,360人	2,110人	2,860人
起業相談支援件数 (再掲)	23件	40件	50件



地域づくり発表会

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆お互いができることを担い、支え合う相互扶助の精神を持つ
- ◆各地区における「小さな拠点づくり」により、地域づくりを実践する
- 企業・団体 ◆自助、互助、共助、公助のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」を支援する

多様性社会の推進

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

現在の日本では、憲法に男女平等がうたわれているにも関わらず、政策・意思決定過程への女性の参画率の低さ、男女間の賃金格差、育児・家事へ参画する男性割合の低さなど多くの問題があり、男女共同参画社会の実現は未だ道半ばにあると言えます。

近年、多様性のある社会を目指し、「目に見えること」だけでなく、価値観などの「目に見えないこと」も含めてあらゆる違いを認め合い、その違いを利点としていかしていく考え方が主流となってきています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の人口は毎年約250人の減少を続けているのに対し、高齢者人口は微増し高齢化率は全国平均を大きく上回っており、今後もますます高くなるが見込まれます。
また、高齢化や核家族化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が年々増加してきています。
- ◆豊富な経験や知識を有する高齢者の方々の関わりの場が限られ、知り合う機会が少なく、また、多様な人材を活用し合える地域の仕組みづくりが希薄になってきています。
- ◆地域コミュニティにおいて、高齢者・男性が中心となって活動が進められることが多く、依然として若者や女性の活動への参加、世代間のつながりが弱い現状にあります。また、男女が協働で子育てや仕事を両立し、共に責任を担う意識が低い傾向にあります。
- ◆今後は高齢者の生きがい対策として、高齢者の豊富な経験から得られた技術や知識が生かせる場や交流の機会を確保することが必要となってきています。

10年後のめざす姿

多様性のある社会を目指し、様々な「違い」を認め合い、みんなで何かを成し遂げるための相互理解と情報共有、「目的に向かって協力し合う気持ち」のあるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
男女共同参画社会の推進に町として達成していると感じている町民の割合 (町民意識調査)	14.4%	22.2%	30.0%
奥出雲町 管理職に占める女性割合	25.0%	25.0%	27.0%

関連計画

第二次奥出雲町男女共同参画計画 平成28年度～令和2年度

取組

(1) すべての世代が笑顔で暮らせる社会づくり

地域のなかで、高齢者や子どもたちが集い、ふれあえる交流の場を提供し、世代間の交流を促進します。

また、高齢者が培ってきた知識や経験等を次世代に継承し、女性や若者の意見提案などお互いの違い等を受け入れ、尊重し合う多様性の大切さに気づけるような公民館活動、生涯学習の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
世代間交流を意図した公民館活動数/年	18回	22回	27回

(2) 多様な人材が活躍する仕組みづくり

性別による固定概念だけでなく、価値観などの偏見を取り払い、それぞれの個性や考え方、能力に応じ、社会参加ができるよう普及啓発を推進するとともに若者や女性の声を地域づくりに反映する場を設けるなど多様な人材が地域社会の維持存続に向けて活躍するコミュニティ活動を支援していきます。

また、女性が社会参加しやすい体制づくりと、性別、年齢、価値観などが共に尊重される仕組みづくり、みんなで支え、協働し合える家庭、職場、地域づくりを推進し、誰もが社会に貢献し生きがいを感じ、いきいきと暮らせるまちづくりに取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町各種審議会等女性委員の割合	22.0%	23.0%	25.0%

(3) 高齢者の活躍推進と社会参加の促進

シルバー人材センター会員数、老人クラブのクラブ数、加入者数は年々、増加傾向にあります。今後もこの状態を維持し、さらに若手会員や女性会員の積極的な参加を社会福祉協議会などの関係団体と連携し促進します。

高齢者の方々が、これまで様々な分野で培ってこられた経験を活かしながら、地域社会の一員として大きな役割を担い、町全体の一層の活性化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
シルバー人材センター会員数	235人	245人	250人
老人クラブ加入者数	1,186人	1,200人	1,250人



幼稚園児との笹巻づくり

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆共に協力し合う意識を持つ
◆価値観の違いを認め合う
- 企業・団体 ◆多様な人材登用を検討していく

結婚・子育て支援の充実

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

令和元(2019)年の出生数は90万人を割り込み、「86万ショック」とも呼ぶべき状況となりました。合計特殊出生率も、ここ数年横ばい傾向にあります。少子化の主な原因は、未婚化・晩婚化と、有配偶出生率の低下であり、背景には経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、男女の仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感、子育てや教育にかかる費用負担の重さなど、個々人の結婚や出産、子育ての希望の実現を阻む様々な要因が複雑に絡み合っています。誰もが結婚、妊娠・出産、子育てに希望を持つことができる環境づくりに取り組むことが求められています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町では、安心して子育てができるよう出産祝金、保育料軽減、医療費助成など経済的負担の軽減を図ってきました。また仕事と子育ての両立を支援するため、病児保育やファミリーサポート事業を始めていますが、休日保育等の多様なニーズもあり、需要に応じた事業の実施が求められています。子育ての不安に寄り添えるように様々な事業の周知を進める必要があります。
- ◆妊娠・出産・子育て・就学へつながらる発達支援や産後にうつ傾向になる方などへの、妊娠期から子育て期までの相談支援や育児支援が必要です。また、包括的に取り組める切れ目のない支援体制づくりが必要です。
- ◆少子化が一段と加速していく現状にあり、その背景には未婚者や晩婚者の増加があります。(一社)しまね縁結びサポートセンターで実施しているしまねコンピューターマッチング「しまコ」の周知や出会いの機会を創出し、縁結びのサポートをする必要があります。
- ◆晩婚等による不妊に悩む夫婦を支援する取組が必要となっており、不妊治療助成制度を行っていますが、知名度は約4割にとどまっている状況です。

10年後のめざす姿

出会いを通じて奥出雲町の魅力を感じ、結婚した後も住みたいと思うまち
子育て環境がさらに充実し、「子育てするなら奥出雲」と思えるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
出生率(合計特殊出生率)	1.70	1.75	1.80
出生数	50人	60人	70人
婚姻数	40件	45件	50件

関連計画

第2期奥出雲町 子ども・子育て支援事業計画 令和2年度～令和6年度

取組

(1) 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

仕事と子育ての両立を支援する取り組みとして、放課後児童クラブ、一時預かり保育の継続実施、核家族や共働き世帯を地域でサポートするファミリーサポート事業等ニーズに応じた子育て環境を整えるとともに、子どもが伸び伸びと遊べる屋内型遊び場の整備や子育て支援センターをさらに充実していきます。

また、働きながら安心して子育てできる事業所の職場環境づくりを推進するため、「おくいずも子育て応援事業所」の認定奨励事業をさらに進めていきます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
この地域で子育てしていきたいと思う保護者の割合	97.0%	100.0%	100.0%

(2) 安心して子育てができる支援体制の推進

不妊治療を希望する方にとって、受けやすい体制となる不妊治療費助成事業の制度の拡充を行い、制度の周知を徹底します。妊娠から出産・子育ての相談窓口を一本化し、関係機関と連携し妊娠期から子育て期まで切れ目ない相談支援体制整備や、産前産後の家事や育児サポート等、妊娠期から利用できるサービスの充実を図ります。

保護者の多様な就労形態や様々な家庭環境に対応するため、病児保育の充実を図り、休日保育の実施を推進します。また、相談者へ子育てに必要な幅広い情報提供を積極的に行う「結婚・子育てコンシェルジュ事業」の継続実施、リアルタイムで情報の提供ができるようWEBサイトや情報誌等で子育て情報を発信します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
不妊治療の認知度	56.0%	70.0%	100.0%
産後4月未満の訪問時に産後のうつ得点が9点以下の産婦の割合	93.7%	100.0%	100.0%

(3) 幸せな未来をつくる出会いづくり

若い男女が奥出雲町に住んでみたいと思えるように、出会いの場を町内で開催するなど、奥出雲町の魅力を発信します。婚活イベントにあってはトレンドを把握し、若者の関心を高め参加意欲につなげます。

また、出会いへの意識の高揚を目的としたイベントの事前セミナーや個別相談を実施します。縁結び支援員、結婚・子育てコンシェルジュ、地域サポーター等が連携し、結婚を望む方の個別マッチングや成婚に向けてのアドバイス等相談者に寄り添ったきめ細やかな取組を進めます。

さらに、しまねコンピューターマッチング「しまコ」の運用を支援し、しまね縁結びサポートセンターと連携した出会いの環境整備に取り組みます。また、中学・高校生を対象に、結婚や出会いを含む人生設計を考える機会を設けるため、ライフプランセミナーの実施を推進します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
出会いの場の件数	22件	27件	32件



出会いのグランピング

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆地域で協力して子育てをする
- 企業・団体 ◆子育てしやすい職場環境をつくる

学校教育の充実

第2期 総合戦略の取組目標

総合戦略取組目標 1 総合戦略取組目標 2 総合戦略取組目標 3 総合戦略取組目標 4

4 質の高い教育をみんなに

施策を取り巻く社会情勢

新学習指導要領（小学校は令和2(2020)年度、中学校は令和3(2021)年度、高校は令和4(2022)年度から実施）により、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指し、各学校で「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業や活動を行うこととなりました。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆旧村単位で小学校10校、旧町単位で中学校2校ありますが、児童生徒数は令和2年度の793名(小511名、中282名)から令和8(2026)年度には643名(小394名、中249名)に減少することが見込まれています。
- ◆また、町内には島根リハビリテーション学院、島根デザイン専門学校の2つの専修学校が立地し、学びの場の提供を通じた町外からの若者の受入機関としての役割を担っています。
- ◆令和元(2019)年度に策定した「奥出雲町の目指す子ども像」に沿って、奥出雲町への愛着と誇りを持ち、自らとふるさとの未来を切り拓こうとする子どもを育成するため、新学習指導要領を踏まえながら学校運営（支援）体制の充実と環境整備、地域との関わりを確保する取組が必要となります。
- ◆また、島根県が取り組む「しまね留学」をベースに、横田高校への入学者数確保、1学年3クラス維持に町として取り組んできました。今後も町外からの生徒を確保し、横田高校生の活動が地域の活力につながるよう、その支援を継続する必要があります。
- ◆少子化が進む中、専修学校、高校及び地域が連携して入学生の確保につながるよう支援が求められています。

10年後のめざす姿

奥出雲町全体や自分が生まれた地域との関わりについて考えながら、
将来の夢や目標を定める児童生徒が多数いるまち
専修学校の生徒が積極的に地域と関わりを持ち、
医療、芸術の分野から奥出雲の発展に貢献する人材育成の場となっているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町のために貢献したいと思う子どもたちの割合 (独自アンケート実施結果による)	73.0%	80.0%	85.0%

関連計画

横田高校魅力化ビジョン 平成29年度～令和3年度

取組

(1)再編を見据えた学校運営(支援)体制の充実と施設整備

子ども一人ひとりの発達に応じた教育を行えるよう、特別支援が必要となる子どもにかかる幼稚園との連携、発達検査等支援体制の充実、各学校への特別支援員継続配置などに努めます。また、小学校再編を見据えながらも、目指す子ども像の育成に必要な教材備品、ICT機器の整備、学校施設整備を着実に進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
普通教室、特別教室への大型提示装置の設置割合	19.0%	60.0%	100.0%

(2)子どもが地域と深く関われる学びの体制づくり

子どもたちの健全な成長には地域の支えが必要です。地域の関わりが子どもたちの郷土への愛着を深めるため、公民館や地域組織を主体とした学び活動、行事が実現できるよう、新たな人材の配置などを含めた学びの体制づくりを進めていきます。

併せて、地域住民や企業、団体の皆様に各学校でのふるさと教育、キャリア教育に今まで以上に携わっていただけるような仕組みづくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ふるさと教育、キャリア教育などの地域協力者リストの整備 (1公民館区につき30名以上)	0地区	4地区	9地区

(3)横田高校・専修学校の魅力化

総合的探求の時間における「奥出雲学²⁴」、独自の海外交流事業など多様な学習活動ができる奥出雲町唯一の高校、横田高校を支援し、横田高校地域協働コンソーシアム²⁵と連携しながらその魅力化事業をさらに推進します。

また、奨学金制度等による支援により、学生の負担を軽減し、専修学校の魅力化につなげます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
横田高校 県外入学者数	4人	10人	15人



大型提示装置を使った授業



地域活動FUN!CLUB

²⁴ 奥出雲学：横田高校が行う、奥出雲町の魅力や課題、地域の未来について生徒たちが総合的な探求の時間を使って取り組む学習活動。取組の中で生徒の課題解決能力やプレゼンテーション能力の育成を図り、成果は「奥出雲町への提言」として成果発表会にて発表をする。

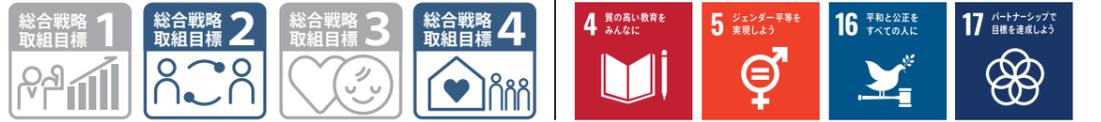
²⁵ 横田高校地域協働コンソーシアム：島根県が県内市町村、県立高校と連携して取り組む「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト」における取組の一つ。教職員と保護者だけでなく自治体、小中学校、地域住民、関係団体などが一体となる組織（コンソーシアム）を作ることで、社会に開かれた教育課程の実現と高校を核とした地方創生の持続可能な好循環を生み出すことを目指す。

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆横田高校生との活動へ積極的に参加する
◆専修学校の学生との地域交流に協力する
- 企業・団体 ◆ふるさと教育やキャリア教育、地域行事などで児童生徒と関わる機会を増やす

社会教育の充実

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

過疎地域では人口減少や高齢化が進展し、コミュニティ機能の低下に伴う様々な課題が深刻化していくなか、住民主体でこれらの課題や社会環境の変化に対応することが求められています。

また、地域の魅力や特色を改めて見つめ直し、その維持発展に取り組むことも期待されています。こうしたなかで、地域における社会教育には、生涯にわたる学びを支援し、住民相互のつながりの形成を促進することに加え、地域の持続的発展を支える取組に資することがより一層期待されています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆派遣社会教育主事の指導及び研修や県事業の活用を通して公民館職員の資質が向上し、各地区において特色ある公民館事業が展開されるようになってきています。しかし、参加者の固定化や高齢層に偏る傾向があり、幅広い世代での交流の場になるよう見直しながら、公民館や地域、学校が連携した活動を継続していく必要があります。
- ◆「地域づくりを担う人づくり」を目指し、公民館活動を中心に、自分ごととして主体的な取組につながるような、人づくり、地域づくりにつなげていく必要があります。
- ◆地域や学校における継続したふるまい向上の推進は、徐々に子どもたちに定着した取組となってきています。さらに、保護者を含む大人を巻き込み、地域全体で推進していく必要があります。
- ◆人権同和教育・啓発を進めたことにより、人権問題への関心は高まっていますが、社会全体においてハラスメントや人権侵害の問題等、人権に関わる新たな問題も生じている現状があります。

10年後のめざす姿

奥出雲町の風土・歴史・文化を愛し、この町の発展に資する人間力を培うための、
地域の多様な人材を巻き込む社会関係資本
(ソーシャルキャピタル=人と人の信頼し合えるつながり)が構築されているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町に愛着を感じている町民の割合 (町民意識調査)	73.6%	76.8%	80.0%
地域活動に参加している町民の割合 (町民意識調査) (再掲)	46.8%	51.8%	56.8%

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 社会教育と連携したふるさと教育・キャリア教育の拡充

生まれ育ったふるさとで「ひと・もの・こと」との関わりを通じた学習を推進していきます。特に、小学校ではたたら体験学習に、中学校では町ぐるみの職場体験学習に継続して取り組みます。

公民館を中心に「地域にふれ・学び・働かせる」ことを意識した活動を行い、地域住民が地域を知り、ふるさとへの愛着と貢献意欲を育むことができるような公民館活動の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「地域にふれ・学び・働かせる」ことを意識した活動回数/年	34回	34回	34回

(2) 奥出雲を愛する多様な人づくり

町内親学ファシリテーターを育成しつつ、保護者を対象とした「親学プログラム²⁶」を積極的に周知活用し、様々な人と相談しながら子育てができる場を提供していくとともに、模範意識や社会性を身につける取組(ふるまい向上)を推進します。地域の将来を担う若者が集い、活躍できる仕組みづくりや世代を超えたつながりを育む公民館活動の充実を図ります。学校再編を視野に入れた地域社会環境の整備や地域と連携した学びの体制づくりを強化します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
世代を超えたつながりや若者育成を意図した活動回数/年	17回	17回	17回

(3) 社会教育における学びの充実

公民館事業に「参加型学習」を取り入れる等、住民が主体的に地域の課題解決やまちづくりに関わるきっかけづくり、地域の大人が子どもの学び・体験に関わる機会を増やし、大人も子どもも集い、学べる場を提供します。

各世代が共に参画する地域コミュニティづくりをめざし、小さな拠点づくりと連携を図りながら、多世代交流や体験活動の充実が図れるよう公民館事業を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域の大人が子どもの学び・体験に関わる活動回数/年	34回	34回	34回

(4) 人権・同和教育の推進

地域や学校、関係機関、行政が一体となり、学校教育及び社会教育の両面から人権・同和教育を推進し、あらゆる差別をなくし、一人ひとりの人権が尊重される人権社会の実現をめざします。

公民館事業や図書普及等、あらゆる学習の機会を活用した社会教育における人権・同和教育の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人権・同和教育研修の実施数/年	10回	12回	15回

(5) 既存施設を活用した図書館の整備

町全体の公共施設整備計画及び学校再編に伴う既存公共施設の有効活用に基づいた図書館の整備及び多様化する住民ニーズやデジタル時代に即した図書館となるような運用を検討しながら進めていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町民一人当たりの図書貸出冊数/年	2.3冊	3冊	4冊

²⁶ 親学プログラム：乳幼児をもつ親や小・中学生をもつ親(保護者)を対象とした学習機会。参加型学習の手法を用いて、参加者同士が交流しながら、親としての役割や子どもとの関わり方について気づきを促すことをねらいとする。

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆公民館活動等に参加する
- ◆図書館を積極的に利用する
- 企業・団体 ◆ふるさと教育・キャリア教育活動に協力する

地域文化・スポーツ振興

第2期 総合戦略の取組目標

総合戦略取組目標 1 総合戦略取組目標 2 総合戦略取組目標 3 総合戦略取組目標 4

3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに

施策を取り巻く社会情勢

心身両面にわたる健康の保持増進に大きく貢献する文化・スポーツ活動は、明るく活力に満ちた社会の形成や豊かな人間形成を育む心身の健全な発達において必要不可欠なものであり、一人ひとりがいきいきとした生涯を送ることにつながります。

また、健康保持は医療費節減の効果も期待される等、経済発展にも寄与します。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆文化協会加盟団体を中心として多種多様な文化芸術活動が定期的継続的に取り組まれ、地域の趣向を凝らした文化活動が公民館等で活発に実施されていますが、会員の高齢化に伴い、活動の継続が危ぶまれている団体が増えてきています。
- ◆結成30年を迎える仁多乃炎太鼓や奥出雲神代神楽は、町内外へと活躍の場を広げており、今後も後継者の育成やPR活動に力を入れ、郷土芸能活動による地域活性化を図る必要があります。
- ◆奥出雲のたたら製鉄をはじめ、神話や歴史文化、自然景勝地等、魅力的で貴重な資源が点在し、価値を見出す機運が広がってきています。
- ◆住民の健康づくりを目的とする「奥出雲スポーツクラブ」は徐々に認知度を上げ、毎年70名程度の会員数を保っています。今後は健康推進に係る担当課や病院等、関係機関との連携のもとに、住民の健康増進を図り、医療費削減等にもつなげていく必要があります。
- ◆町を代表するスポーツであるホッケーをはじめ、陸上、剣道、バレー等、全国で活躍する地元出身選手を数多く輩出していますが、急激な少子化や学校部活動の在り方等の課題があり、本町におけるホッケー競技等の普及やスポーツ振興をどのように展開していくのか、検討が必要です。

10年後のめざす姿

たたら製鉄の歴史や自然景勝地、奥出雲ならではの文化やスポーツ等、地域資源である「奥出雲の宝」を活かした学校教育・生涯学習が充実しているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
伝統文化・文化財保全活動に参加している町民の割合 (町民意識調査)	16.0%	23.0%	30.0%
スポーツに関わる活動に参加している町民の割合 (町民意識調査)	28.2%	33.2%	38.2%

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 文化の薫り高いまちづくりの推進

様々な分野で活動する団体が活躍できる場を提供するとともに、住民が芸術文化に触れ、世代間交流を図ることのできる機会を創出し、文化芸術活動を担う人材を育成します。また、活動拠点の確保などにより郷土芸能活動を支援し、文化芸術活動の普及と振興を図り、地域活性化につながる事業を実施します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
郷土芸能活動団体の会員数	44人	46人	48人

(2) 奥出雲町遺産と国県指定文化財の保存と活用

町が認定した奥出雲町遺産や国、県、町指定の文化財を「奥出雲の宝」として、住民がそれらに親しみ、その価値への理解を深めるように幅広い世代に向けた普及啓発を図り、担い手の確保や次世代への確実な継承につなげます。また、文化財の保存整備・活用において地域と協働した仕掛けづくりを図るために関係機関との連携を強化します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「奥出雲の遺産」認定件数 (再掲)	77件	90件	100件

(3) いきいきライフを支える生涯スポーツの充実

スポーツを通じた健康づくりを推進する奥出雲スポーツクラブの充実を図り、住民の健康寿命の延伸と元気で健やかに暮らせる奥出雲町を目指します。また、高齢化が進む中であっても住民が参加しやすい環境の整備(交通手段、地元利用施設等)を図り、関係機関との連携のもと、体制づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲スポーツクラブ会員数	70人	80人	90人

(4) 町民に夢と感動を与えるスポーツ振興

町を代表するスポーツ、ホッケー競技を中心としたスポーツ振興に継続して取り組み、東京オリンピックをきっかけにメディアやSNS等を有効活用し、奥出雲町を国内外に発信していきます。

2030年には2巡目の島根国体(第84回国民スポーツ大会)が開催される予定であり、住民のスポーツに対する機運を高めるとともに、指導者の育成や小中高生の競技力向上を図ります。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
小中高生と地域のホッケー経験者との交流	1回	5回	10回



インドの高校生ホッケーチームとの交流

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆芸術文化活動に参加する ◆様々な世代とスポーツを楽しむ
- 企業・団体 ◆奥出雲町の芸術・文化活動を応援する ◆奥出雲町のスポーツ振興を応援する

地域間交流・国際交流の推進

第2期 総合戦略の取組目標



施策を取り巻く社会情勢

情報通信や経済等におけるグローバル化の波が様々な形で、我々の生活に直接影響を及ぼす中で、社会で生き抜き、さまざまな分野で活躍できる人材の育成と確保が必要となってきます。そうしたなかで、生活や文化、教育、経済等あらゆる面でグローバル化に対応した人づくり・町づくりを進めていくことが期待されています。

また、人口減少・少子高齢化により、地域づくりの担い手不足といった問題に直面する中、都市部にいながら地域や地域の人々と多様に関わりを持つ「関係人口」が注目されています。社会貢献として積極的に関わりたい方、学生のようにキャリア形成のために町に関わる方、実際に訪問しないが、ふるさと納税で応援する方など、多様性に満ちており、それぞれのニーズに対し受け入れができる企画をマッチングすることが必要です。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆ 国際交流協会を核として、アメリカやタイからの高校生受け入れ事業を継続して取り組み、ホストファミリー体験や交流活動の推進に努めてきましたが、ホストを希望される家庭や参加者は固定化の傾向にあります。今後、異文化に対する理解を深め、住民一人ひとりが主役となるホスピタリティあふれる地域づくりを進めていく必要があります。
- ◆ インド出身の国際交流員による幼小への出前講座及び公民館をはじめとする地域での異文化講座等を実施しています。異なる文化や生活習慣をもつ同士が相互に交流して理解を深め、体験の幅を広げていく場は貴重なものになっています。
- ◆ 今後も企業の人手不足などを背景とした外国人住民の増加や町内への外国人観光客も増加するなど、町民が外国人との関わりを持つ機会が増加が見込まれるため、国際感覚を持ち、コミュニケーション能力を有する人材の育成や住民一人ひとりが相互理解を深める多文化共生の取組が求められています。

10年後のめざす姿

奥出雲町の魅力を活かした地域間交流・国際交流を進め、広い視野を保つ国際的感覚を持った人材を育成し、国内外に開かれたまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
広域間・国際交流推進の充足度 (町民意識調査)	23.1%	26.5%	30.0%

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 関係人口の拡大と地域間交流の促進

地域の担い手が不足し、行事や祭事など伝統的な文化の維持存続が危惧される中、出身地域や関心のある地域と関係を持ち、主体的・側面的に関わる関係人口の拡大はこれからの農村社会にとって欠かせないことです。

こうした関わりを大切に交流できる地域を育てるために、地域での深い付き合いを保ちながら、受け入れ先の掘り起こしや人と人をつなぐ仕組みづくり、交流を仲介する中間支援組織等を育成し、地域が多様な人材と関われる交流の輪を広げていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
公民館活動における広域間交流イベント参加者数/年	50人	60人	70人

(2) スポーツ大会・合宿誘致

自然豊かな環境と町内施設を活用したスポーツ合宿を県内外から積極的に誘致し、スポーツによる地域活性化を図ります。また、ホッケー、剣道、アーチェリー等、これまで実施したスポーツ大会の誘致についても積極的に受け入れ、町内のスポーツ振興にもつなげていきます。さらに、町内のスポーツ少年団や地域住民を対象とするスポーツを通じた交流機会の拡大を図ることで、豊かな心の育成につなげます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
スポーツ合宿実施件数/年	3件	5件	10件

(3) 多文化共生・国際交流の推進

多文化共生社会実現のために、国際交流や多文化共生に関係する団体、ALT²⁷等との連携のもと、異文化交流活動の充実を図ります。また、中高生を対象とする学びの場や国際交流の機会を拡大するために高校魅力化コンソーシアム等、関係機関との連携を強化していきます。

外国人住民に対して、必要な情報の提供、生活全般にわたる支援を行い、相互理解を促進し、多文化が共生する地域づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
異文化交流活動 (ALTなどによる出前講座など)の活動回数/年	2回	4回	9回



小学校児童と国際交流員

²⁷ ALT: Assistant Language Teacherの略。教育委員会から、児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的として小・中学校・高等学校に配置される外国語指導助手。

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆他の地域や国の人たちと積極的に交流する
- 企業・団体 ◆スポーツや国際交流の場を創出する